

〈閉経〉をめぐるポリティクス —世紀転換期ドイツにおける医学概念受容のプロセス—	
原 葉子	比較社会文化学専攻
期間	2006年1月28日～2月25日
場所	ドイツ
施設	医師協会図書館、ハンブルク古文書館、ベルリン国立図書館、フンボルト大学古文書館、ドイツ中央医学図書館

内容報告

報告者の博士論文は、ドイツ18世紀から20世紀初頭までのスパンを設定し、近代における〈閉経〉概念の変容と、そこに接続される〈老人女性〉の位置づけの変化を分析しようとするものである。

このテーマへの手がかりとして、報告者は当時流通していた医学言説を考察対象としている。ドイツ医学は18世紀末から19世紀初頭にかけて、古典的な「体液病理説」を克服し、臨床経験を重視するいわゆる「近代医学」へ移行する(Loetz 1994)。医者ステイタスはいまだ周縁的であり、専門職としての地位固めは19世紀後半以降のことになるが(服部 1995)、この時期台頭しつつあった市民階級により、独自の価値観による「市民的な健康概念」が形成されたこと(Labisch 1989=1997: 129)、同時に人口の掌握と増大を目的とする「医療ポリツァイ」としての医学が、その社会的重要性を飛躍的に増大させたことが指摘されている(市野川 1993)。医学は、人々の身体管理を通して生活・行動規範を形作り、社会秩序に正当性を付与するディシプリンとして、市民社会の基盤の一要素となっていくのである。また国外的には、ドイツ医学は近代医学全体を牽引する位置にあり、19世紀末から20世紀前半にかけて、西洋医学を取り込もうとしていた日本などの諸外国にも大きな影響を与えている。ドイツ近代における医学言説は、ドイツ近代市民社会の価値観を媒介しているだけでなく、より広い射程を持ちうるものであると考える。

本調査研究では「〈閉経〉をめぐるポリティクス：世紀転換期ドイツにおける医学概念受容のプロセス」のテーマに即して、とくに19世紀後半から20世紀前半までの史料に的を絞って収集した。主なものは、婦人科医学に関する専門書、家庭向けの医学書のほか、19世紀末以降数多く刊行された女性雑誌の記事である。この期間にドイツ語圏で刊行された医学書は、前述の要因からも国内にいくらか蔵書が見られるが、各地に散逸しているうえ、絶対的な量が少ない。さらに情報の受容側に近い家庭用医学書や女性向け雑誌といった史料は、日本国内ではほとんど入手できない。そのため、今回のようなある程度長期にわたる現地での史料収集は不可欠であった。

今回の史資料収集状況については以下の通りである。まず、現地の図書館の蔵書を日本で検索して訪問先を決め、事前対応が可能な図書館にはあらかじめリストを送付し出庫を依頼した。また、訪問地にある研究所、病院、古文書館などにも問い合わせをし、史資料の所在を確認した。

現地においては、婦人科医学専門書および家庭医学書、啓蒙書などの収集は、事前調査の通りに終了した。しかし、女性雑誌は内容目次のないものが多く、何年分もの雑誌の全頁を繰るという作業が必要となり、長時間を要した。そのため、今回の滞在で対応しきれない史資料も出たのが残念である。また古文書館では、医療記録や病院組織などに関わる史料の調査を行ったが、事前の問い合わせも含めてか

なり時間を費やしたにもかかわらず、史料状況が思わしくなく、不十分な収集となった。

そのほかに、日本国内では入手不可能な参考文献の複写、購入等も行った。絶版となった書籍に関しては、古書店を通じて入手する手段もとった。

参考文献

服部伸, 1995, 「医師資格の制度と機能」望田幸男編『近代ドイツ＝「資格社会」の制度と機能』名古屋大学出版会,

199-236.

市野川容孝, 1993, 「生 - 権力論批判 ドイツ医療政策史から」『現代思想』Vol.21-12, 163-179.

アルフォンス・ラービッシュ, 1989=1997, (市野川容孝訳)「文明化の過程における健康概念と医療」『思想』878号 121-153.

Loetz, Francisca, 1994, „Medikalisierung“ in Frankreich, Großbritannien und Deutschland, 1750-1850: Ansätze, Ergebnisse und Perspektiven der Forschung. In: Wolfgang U. Eckart u. Robert Jütte hrsg., *Das europäische Gesundheitssystem: Gemeinsamkeiten und Unterschiede in historischer Perspektive*, Stuttgart: Steiner, 123-161.

はら ようこ／お茶の水女子大学大学院 比較社会文化学

修正箇所

- (1) 第1節のタイトル名、および最終段落を削除
- (2) 第2節をすべて削除
- (3) 掲載部分で言及されていない参考文献を削除
- (4) 電子メールアドレスを削除

修正日 2006年11月23日

指導教員のコメント

報告者（原葉子）は、大学院後期課程入学以降、博士論文に向けての研究計画にそって研究を進めてきており、今回実施したドイツでの資史料の収集も、博士論文の一部をなす論文の作成のために行ったものである。報告者の研究は、日本で入手できる文献や、刊行された史資料のみに依拠して行うことは不可能であり、これまで、海外渡航の費用が確保できないために研究に遅れが生じるということもあったが、今回、渡航が可能になったことで、博士論文作成に向けて研究のさらなる進展が期待できるようになったことは喜ばしいことである。

報告者は、近代ドイツにおける〈閉経〉概念の変容と、それと関わる〈老人女性〉の位置づけを実証的に解明することを研究の課題としている。ジェンダーとエイジングと近代医療という3つの主題の交錯する地点に着目した着眼点の良さも評価に値するが、丹念な資史料の解説・分析を積み重ね着実に研究を進めている点に注目したい。報告者の研究の成果は、現代的問題としての〈更年期〉〈エイジング〉と医療の関わりについてのジェンダー視点からの研究にも多くの示唆を与えてくれることが期待される。

(文教育学部 教授 平岡 公一)